

「長崎原爆」学んだ児童が折り鶴展

イタリア10市の小学校 共同開催



平和を願い開かれた折り鶴展。多くの子どもたちが参加した
＝イタリア・ボルゴノーボ市役所

本紙と合同企画の地元紙呼び掛け

子どもら「被爆地に届けたい」

今年の長崎原爆の日に「平和」をテーマに本紙と合同企画を展開したイタリアの地方紙「リベルタ新聞」が中心となり、同国ボルゴノーボ市の市役所ホールで三十日まで、子どもたちが平和を願って作った折り鶴の展示会を開いている。子どもたちは「折り鶴を被爆地に届けたい」と話しているという。

紙で合同企画に取り組んだ。長崎を訪れたことがあるリベルタ新聞社のカメラマンでリポーターのマッシモ・ベルサーニさんが今回、地元の小学校で平和教育を実施。子どもたちに広島、長崎被爆の惨状などを話すとともに、長崎の爆心地などに飾られている千羽鶴を紹介して折り鶴作りを手ほどきした。

リベルタ新聞は広島、長崎の原爆の日に合わせて、これまで紙面で平和特集を掲載している。今夏は長崎新聞社が「平和の灯」として両市の小学校の児童たちが、折り鶴や長

崎の子どもたち向けに描いた絵画を展示。同紙のガエターノ・リッツート社長は「一日も早く平和な世界が訪れることを願い、これからも協力していきたい」と本紙が寄せたメッセージを紹介した。

折の原爆の日に合わせて、これまで紙面で平和特集を掲載している。今夏は長崎新聞社が「平和の灯」として両市の小学校の児童たちが、折り鶴や長

折の鶴展は、平和教育の成果を発表しようとしてリベルタ新聞、ボルゴノーボ市、各小学校が二十三日から共同で開催。約十市の小学校の児童たちが、折り鶴や長

折の鶴展は、平和教育の成果を発表しようとしてリベルタ新聞、ボルゴノーボ市、各小学校が二十三日から共同で開催。約十市の小学校の児童たちが、折り鶴や長

折の鶴展は、平和教育の成果を発表しようとしてリベルタ新聞、ボルゴノーボ市、各小学校が二十三日から共同で開催。約十市の小学校の児童たちが、折り鶴や長